

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月4日

【四半期会計期間】 第16期第1四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）

【会社名】 株式会社ビューティ花壇

【英訳名】 Beauty Kadan Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三島 美佐夫

【本店の所在の場所】 東京都墨田区横網一丁目2番16号両国国技館前東誠ビル7階

【電話番号】 03 - 5819 - 5670

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 須浪 薫

【最寄りの連絡場所】 東京都墨田区横網一丁目2番16号両国国技館前東誠ビル7階

【電話番号】 03 - 5819 - 5670

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 須浪 薫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第1四半期連結 累計期間	第16期 第1四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日
売上高 (千円)	992,589	1,011,127	4,122,743
経常利益又は経常損失 () (千円)	27,070	2,369	181,533
四半期(当期)純利益又は四 半期純損失() (千円)	8,875	12,316	125,462
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	14,474	14,692	142,806
純資産額 (千円)	440,870	505,982	565,013
総資産額 (千円)	1,310,241	1,638,145	1,644,625
1株当たり四半期(当期)純 利益金額又は1株当たり四半 期純損失金額() (円)	404.77	576.99	5,830.51
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額 (円)	400.22	-	5,813.54
自己資本比率 (%)	30.0	27.4	30.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第15期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4. 第16期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社2社(美麗花壇股? 有限公司、株式会社クラウンガーデネックス)によって構成されており、生花祭壇事業、生花卸売事業及びブライダル装花事業に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当第1四半期連結会計期間より、生花祭壇事業及びブライダル装花事業売上に対応する原価をより適切に示すため、売上原価及び販売費及び一般管理費の一部を組み替えによる表示の変更を行っており、遡及処理後の数値で当四半期連結累計期間の比較・分析を行っております。

また、前連結会計年度の期末より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当四半期連結累計期間の比較・分析は、変更の影響を含めております。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、回復基調にあるものの、円高の進行や中国をはじめとしたアジア各国の金融引締政策やユーロ圏の財政問題等による海外の景気減速など、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、中期経営計画の達成に向けてグループ一丸となって取り組んでおります。基本方針として、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客における当社への発注シェアアップによる売上アップ、徹底的な経費削減を推進してまいりました。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、1,011,127千円（前年同期比1.9%増）となりました。売上総利益は、中期経営計画の1つである徹底したローコストオペレーションのために取り組んでいる加工物流センターへの設備投資と同センターにおける人材の先行雇用、教育費用が増加したことにより、150,961千円（前年同期比24.3%減）となりました。販売費及び一般管理費は、顧問料、人件費等を抑え150,748千円（前年同期比12.6%減）となり、営業利益は、212千円（前年同期比99.2%減）となりました。また、経常損失は、2,369千円（前年同期は27,070千円の経常利益）、四半期純損失は、固定資産の除却により12,316千円（前年同期は8,875千円の四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、761,313千円（前年同期比1.5%増）となりました。経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」（サンプル調査）によると、葬儀業の平成23年7月から平成23年8月までの売上高は89,529百万円（前年同期比12.2%増）、件数は61,950件（前年同期比13.7%増）と増加傾向にあります。このような状況の中、前述の全社基本方針を徹底してまいりましたが、加工物流センターへの設備投資と同センターにおける人材の先行雇用、教育費用が増加したことにより営業利益は48,038千円（前年同期比50.1%減）となりました。

(生花卸売事業)

生花卸売事業の売上高は、198,936千円（前年同期比1.2%増）となりました。東京都中央卸売市場「市場統計情報」（平成23年9月）によると、平成23年7月から平成23年9月までの切花累計の数量は267百万本（前年同期比4%増）、金額では15,788百万円（前年同期比2.2%減）と数量ベースでは増加、金額ベースでは減少となっております。当社では、前述の全社基本方針を徹底した結果、当第1四半期連結累計期間の取扱数量は前年同期比で15.8%増となっております。その一方で、当事業が属する花卉業界におきましても低価格競争が激しくなり、営業利益は45,765千円（前年同期比13.2%減）となりました。

(ブライダル装花事業)

ブライダル装花事業の売上高は、50,877千円（前年同期比11.4%増）となりました。結婚式場業は少子化や非婚化・晩婚化等の影響を受けており、経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」（サンプル調査）によると、平成23年6月から平成23年8月までの結婚式場業の売上高は29,559百万円（前年同期比9.9%減）、取扱件数は10,259件（前年同期比9%減）と減少傾向にあります。当事業を請け負う連結子会社の株式会社クラウンガーデネックスにおいて、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客における当社への発注シェアアップによる売上アップにより、売上高、売上総利益ともに改善しました。しかしながら、販売促進費等の増加により営業損失は4,291千円（前年同期は5,445千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ6,480千円減少し、1,638,145千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ8,586千円増加し、1,044,239千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少と原材料及び貯蔵品の増加によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ15,065千円減少し、593,906千円となりました。これは主に、差入保証金の減少によるものであります。

当第1四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べ52,552千円増加し、1,132,163千円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ45,793千円増加し、644,088千円となりました。これは主に、短期借入金と1年内返済予定の長期借入金の増加によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ6,759千円増加し、488,074千円となりました。これは主に、社債の減少と長期借入金の増加によるものであります。

当第1四半期連結会計期間の純資産は、前連結会計年度末に比べ59,031千円減少し、505,982千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	88,000
計	88,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月4日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,380	25,380	東京証券取引所 (マザーズ)	当社は単元株制度は採用していません。
計	25,380	25,380		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	25,380	-	213,240	-	133,240

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,032	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,348	21,348	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
発行済株式総数	25,380	-	-
総株主の議決権	-	21,348	-

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ビューティ花壇	東京都墨田区横網一丁目2番16号	4,032		4,032	15.89
計		4,032		4,032	15.89

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人よつば総合事務所による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	515,811	514,009
受取手形及び売掛金	435,351	420,968
商品	2,762	4,568
仕掛品	198	33
原材料及び貯蔵品	11,554	19,773
その他	73,114	90,602
貸倒引当金	3,140	5,716
流動資産合計	1,035,653	1,044,239
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	114,295	116,588
減価償却累計額	56,382	58,147
建物及び構築物(純額)	57,913	58,440
工具、器具及び備品	174,137	169,565
減価償却累計額	115,536	116,517
工具、器具及び備品(純額)	58,601	53,047
土地	122,842	122,842
その他	66,725	71,455
減価償却累計額	11,373	16,991
その他(純額)	55,352	54,463
有形固定資産合計	294,708	288,793
無形固定資産	15,625	7,679
投資その他の資産		
差入保証金	161,502	147,191
その他	158,806	173,635
貸倒引当金	21,670	23,393
投資その他の資産合計	298,638	297,433
固定資産合計	608,971	593,906
資産合計	1,644,625	1,638,145

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	75,783	82,073
短期借入金	40,500	65,000
1年内返済予定の長期借入金	193,560	224,360
未払法人税等	39,905	20,119
賞与引当金	-	24,332
その他	248,547	228,202
流動負債合計	598,295	644,088
固定負債		
社債	95,000	85,000
長期借入金	350,064	368,774
退職給付引当金	14,369	14,477
その他	21,882	19,823
固定負債合計	481,315	488,074
負債合計	1,079,611	1,132,163
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	213,240
資本剰余金	133,240	133,240
利益剰余金	308,722	253,709
自己株式	142,851	144,495
株主資本合計	512,350	455,694
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	7,301	7,300
その他の包括利益累計額合計	7,301	7,300
少数株主持分	59,964	57,588
純資産合計	565,013	505,982
負債純資産合計	1,644,625	1,638,145

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
売上高	992,589	1,011,127
売上原価	793,288	860,165
売上総利益	199,301	150,961
販売費及び一般管理費	172,552	150,748
営業利益	26,749	212
営業外収益		
受取利息	141	144
受取地代家賃	2,733	2,625
補助金収入	1,530	-
為替差益	-	1,516
その他	747	824
営業外収益合計	5,152	5,111
営業外費用		
支払利息	2,735	2,597
貸倒引当金繰入額	-	3,500
不動産賃貸費用	1,285	1,325
その他	810	270
営業外費用合計	4,831	7,693
経常利益又は経常損失()	27,070	2,369
特別利益		
固定資産売却益	1,561	-
特別利益合計	1,561	-
特別損失		
固定資産除却損	-	11,585
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,347	-
その他	11	-
特別損失合計	2,359	11,585
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	26,272	13,954
法人税、住民税及び事業税	17,058	10,876
法人税等調整額	8,163	10,138
法人税等合計	8,895	738
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	17,377	14,693
少数株主利益又は少数株主損失()	8,501	2,376
四半期純利益又は四半期純損失()	8,875	12,316

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	17,377	14,693
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	2,903	0
その他の包括利益合計	2,903	0
四半期包括利益	14,474	14,692
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,424	12,316
少数株主に係る四半期包括利益	7,050	2,375

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
減価償却費 12,155千円	減価償却費 12,859千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年9月24日 定時株主総会	普通株式	28,740	1,300	平成22年6月30日	平成22年9月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年9月22日 定時株主総会	普通株式	42,696	2,000	平成23年6月30日	平成23年9月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル 装花事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	750,141	196,639	45,658	992,439	150	992,589	-	992,589
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	222,801	2,231	225,032	-	225,032	225,032	-
計	750,141	419,441	47,889	1,217,472	150	1,217,622	225,032	992,589
セグメント利益又は損 失()	96,279	52,738	5,445	143,572	830	142,741	115,992	26,749

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プランツスケープ事業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 115,992千円には、セグメント間取引消去 307千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 115,684千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	生花祭壇事業	生花卸売事業	ブライダル 装花事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	761,313	198,936	50,877	1,011,127	-	1,011,127
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	236,161	2,461	238,623	238,623	-
計	761,313	435,098	53,339	1,249,750	238,623	1,011,127
セグメント利益又は損 失()	48,038	45,765	4,291	89,511	89,298	212

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 89,298千円には、セグメント間取引消去489千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 89,787千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前第3四半期連結累計期間まで生花祭壇事業及び生花卸売事業の2つを報告セグメントとしておりましたが、前連結会計年度の期末より、生花祭壇事業、生花卸売事業及びブライダル装花事業の3つの報告セグメントに変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントに基づき作成していません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(円)	404.77	576.99
四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	8,875	12,316
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	8,875	12,316
期中平均株式数(株)	21,927	21,346
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)	400.22	-
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	400	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

株式取得（子会社化）に関する基本合意書締結について

当社は、平成23年10月5日開催の取締役会において、昇建設株式会社の株式を取得し子会社化することを決議し、同日付で同社と基本合意書を締結しました。

1. 株式の取得の理由

当社は、100%子会社である株式会社クラウンガーデネックスを中心に、造園施設の企画、設計、監理等を行っております。この度、昇建設株式会社の株式を取得し子会社化することにより、造園・土木に関する業務を強化し、更なる事業の発展を目指すものであります。

2. 対象会社の概要

名称	昇建設株式会社		
所在地	熊本市国府三丁目21番91号		
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 平山 正俊		
事業内容	土木・管工事一式請負		
資本金	48,000,000円		
設立年月日	昭和29年5月8日		
大株主および持ち株比率	荒木哲美 55.8%		
当社との関係	資本関係	当社と当該会社との間には、記載すべき資本関係はありません。	
	人的関係	当社と当該会社との間には、記載すべき人的関係はありません。	
	取引関係	当社と当該会社との間には、記載すべき取引関係はありません。	
当該会社の直近3年間の経営成績			
決算期	平成21年2月期	平成22年2月期	平成23年2月期
純資産	81百万円	83百万円	94百万円
総資産	386百万円	508百万円	356百万円
1株当たり純資産	850円	872円	984円
売上高	568百万円	424百万円	649百万円
営業利益	17百万円	11百万円	21百万円
経常利益	6百万円	3百万円	18百万円
当期純利益	3百万円	2百万円	10百万円
1株当たり当期純利益	34円	21円	111円
1株当たり配当金	1円	1円	1円

3. 株式取得の相手先の概要

氏名	荒木 哲美
住所	熊本県熊本市
上場会社と当該個人の関係	当社と当該個人（その近親者、当該個人及びその近親者が過半数所有している会社等並びにその子会社を含む。）との間には、記載すべき資本関係・人的関係・取引関係はありません。また、当社の関係者及び関係会社と当該個人並びに当該個人の関係者及び関係会社の間には、特筆すべき資本関係・取引関係はありません。

氏名	荒木 サナエ
住所	熊本県熊本市
上場会社と当該個人の関係	当社と当該個人（その近親者、当該個人及びその近親者が過半数所有している会社等並びにその子会社を含む。）との間には、記載すべき資本関係・人的関係・取引関係はありません。また、当社の関係者及び関係会社と当該個人並びに当該個人の関係者及び関係会社の間には、特筆すべき資本関係・取引関係はありません。

4. 取得株式数、取得前後の所有株式の状況

異動前の所有株式数	0株 (議決権の数：0個) (所有割合：0%)
取得株式数（予定）	56,000株 (議決権の数：56,000個) (発行済株式数に対する割合：58.3%) (取得価額：未定)
異動後の所有株式数（予定）	56,000株 (議決権の数：56,000個) (所有割合：58.3%)

5. 異動の日程

- 平成23年10月5日 株式譲渡基本合意契約書締結
- 平成23年12月1日 株式譲渡契約書締結（予定）
- 平成23年12月1日 譲渡日（予定）

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月4日

株式会社ビューティ花壇
取締役会 御中

監査法人よつば総合事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 神門 剛 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高屋 友宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティ花壇の平成23年7月1日から平成24年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティ花壇及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成23年10月5日開催の取締役会において、昇建設株式会社の株式を取得し子会社化することを決議し、同日付で同社と基本合意書を締結した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものでない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。